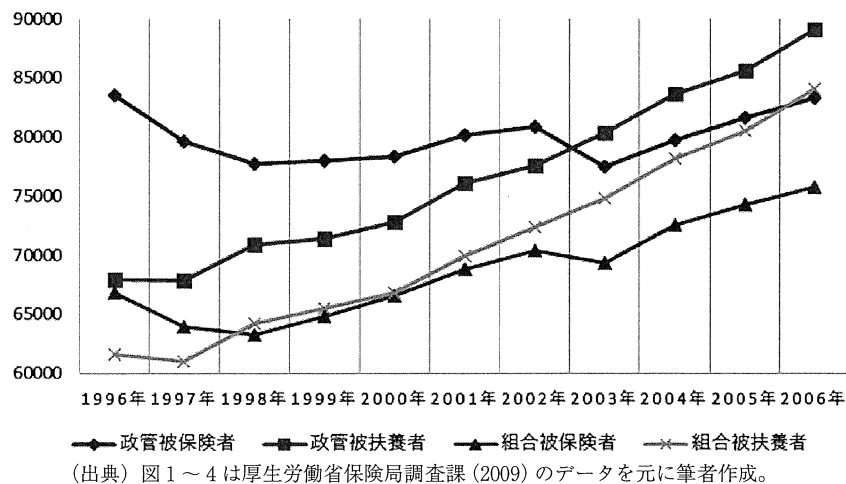


外来の国民医療費を医療費の3要素に分解する。以下は「1人あたり医療費」と3要素の推移を図で示したものである²⁰⁾。患者負担引き上げの対象となったのは、組合健保と政管健保（現協会けんぽ）の被保険者本人だが、比較対象として患者負担率に変更がなかったそれぞれの被扶養者のデータも併せてあげている。注目すべきは患者負担引き上げがあった1997年度と2003年度とその前後である。ただし、1997年度の患者負担引き上げは年度途中の9月に行われたので、1998年度も含めて確認する必要がある。

全体の変化を表す図1の「1人あたり医療費」は、基本的には右肩上がりの被扶養者と比べ、被保険者本人では、患者負担引き上げがあった1997年とその翌年に医療費が下がっている。その後被扶養者同様上昇するが、2003年で低下し再び上昇に転じている。患者負担率が1割だった1996年と、3割になり数年経った2006年の医療費とを比較すると、政管健保被保険者以外の医療費は上昇していることから、政管健保被保険者に対しては、患者負担を上げたことにより医療費の上昇を抑える効果があったことがうかが

(円) 図1 1人あたり医療費



(件) 図2 1人あたり件数

